

恵風会だより

第 7 号

2010

(平成22年)

1.1

社会福祉法人 恵風会 〒371-0017 前橋市日吉町 2 丁目20番地14 TEL(027)231-3430 FAX(027)231-3420

新しい年を迎え、周囲の状況はよりきびしさを呈しておりますが、憲法理念に基づく福祉の仕事は重要性を増しております。お年寄りが安心して生活できる仕組みを打ち立ててほしいと念願し、年頭に当って所感を述べます。

一、高齢化が進むなかで、老人福祉事業の柱である介護の仕事も又そのあり方が問われています。

今日この事

業は主として介護保険制度によって運営されていますが、二〇〇〇年に法律が制定されて以来、何回かの改訂が行われて来ましたが小

巻 頭 言



生きる力となる よりよい介護制度の確立を

理事長 田 辺

誠

あげたか。
③医療との連携を視野に入れた新しい仕組づくりは具体化が進んだか。

④地域社会のなかでの高齢者の位置づけが薄らいで来てはいないか。

二、昨年朝日新聞が特集で介護保険改革の問題点を取り上げ、わが国介護保険制度創設のモデルとなったドイツの改革が急ピッチで進んでいる報告が明らかに

が国の制度を比較して見ると、これからの制度改革の上はかなり取り入れるべきものがあると思います。

ドイツの改革の重点は①介護の対象を重度の認知症に重点をおいている

(要介護度は三段階)

②介護料の値上げは将来を見すえて決め、今後五年間の財源を確保し、安定的運営が可能である

③質的向上に取り組み、介

るとともに、現金給付について次のような意見を述べたことを覚えています。

「在宅介護を充実するためには、家族に介護することへの喜びと意気込みを与え、更に施設依存を増大させないためにも年限を区切って取り入れてはどうか」と主張しましたが財政上などの理由から取り上げられなかったのです(この仕組みが存在した方が財政上も利

点があったと思っていました。今日になってこの問題が話題になっていることを考えると残念な思いがいたします。

五、いづれにしても介護への認識が深まってきたからこそ、将来に亘って安心して老後をゆだねることの出来る制度の改革を行うべきであり、そのなかでの社会福祉法人の役割はますます大きくなって行くと考えられ、私共これにたずさわるものの使命を達成するため全力をつくす決意であります。

されています。そのポイント

①介護保険財源確保のため保険料の引き上げを行い、国民の理解を得ている

②制度運営上最も重要なポイントである認定方式の合理的見直し

③日本では制定時に見送られた在宅介護への現金給付の維持

三、このドイツ方式とわ

護施設への検査は年一回抜き打ちで実施し、点数で評価する

④在宅介護は現物給付と現金給付の二本立て(本人の選択、定期的に点検)

四、わが国の介護保険制度は一九九五年から五年間の準備・検討を積み重ねて

制定されたが、私は九六年の政界引退までわずかの期間だけ事前討議に参画し、在宅介護の重要性を力説す

地域に必要な施設へ

養護老人ホーム 前橋老人ホーム

施設長 大島 敬 三



明けましておめでとうございます。

昨年十一月に異動により養護老人ホームの施設長及び地域包括支援センターの開設備の責任者としてお世話になっていきます。

昨年、五十年間政権の座についていた自民党が選挙で完敗し、政権交代により民主党政権が誕生しましたが、景気の状態や雇用情勢の好転は未だみられず、派遣村や無料低額宿泊所に象徴されるように早急且つ実効的な景気対策・雇用対策

が望まれています。

さて、長い間、低所得高齢者の措置施設として機能してきた養護老人ホームも市町村に一般財源化されて以来、大きく停滞気味の感はありませんでしたが、このような景気雇用情勢の下、低所得貧困高齢者のセーフティネットとしてその存在価値がますます大きくなり、また、注目させなければならぬと考えます。注目されれば世の中の見目はより一層厳しくなると思いますので、現状に甘んじず個別での接遇・ソーシャルワークやケアマネジメントという考え方を導入し、施設内ケアにとどまらず、地域に必要とされる施設を目指してしっかりと取り組んでまいります。

本年四月に開設を予定している地域包括支援センターは、事務所の改修も順調に進み、職員も優秀な人材を確保することが出来ました。市や地域と細かく連携

利用者第一を目標に

特別養護老人ホーム 恵風園
前橋市恵風園デイサービスセンター

施設長 田 辺 裕



明けましておめでとうございます。

平成二十一年十一月より、特別養護老人ホーム恵風園及び前橋市恵風園デイサービスセンターの責任者としてお世話になることになりました。よろしくお願い致します。

介護保険制度も平成十二

し、圏域の地域支援事業の核としての高齢者総合相談センターとして積極的に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

年から開始され、今年の四月で十年の節目を迎えます。

これまで幾度かの介護報酬改定等（減額改定）がありました。平成二十一年度には初めての三割の介護報酬UP（加算等の新設）が有りました。また、平成二十一年度から介護職員に對しての処遇改善交付金も新設され、介護職離れに歯止めを掛けようとする政策も実施されております。私が担当する特別養護老人ホーム恵風園では、平成二十一年度から認知症ケア（介護力向上研修）の取組

を開始しました。これは、一年間の長期にわたる継続的研修を受講し、利用者さんのおむつ外しを目標に、リハビリや水分補給の充実等を行い利用者さんをトイレに行ってもらい、おむつを外そうという取組です。今年度はある程度の実績を出せる状況に成りましたが来年度以降も引き続き取り組んでいきたいと思っております。

デイサービスでは、前橋市内でデイサービスの乱立により飽和状態にあると思われまふ。その中で利用者さんも日平均約三十名（定員四十名）の利用をしていただいております。昨年度より利用者増になる見込みです。これには新規利用者に「恵風園に来てよかった。」と思われるような心がけて接遇にあたっています。今後とも利用者第一を施設目標に掲げて取り組んで行きたいと思ひます。

安心できる生活を支援

居宅介護支援事業所
ホームヘルパーステーション

施設長 井上 恵美子



新年明けましておめでと
うございます。

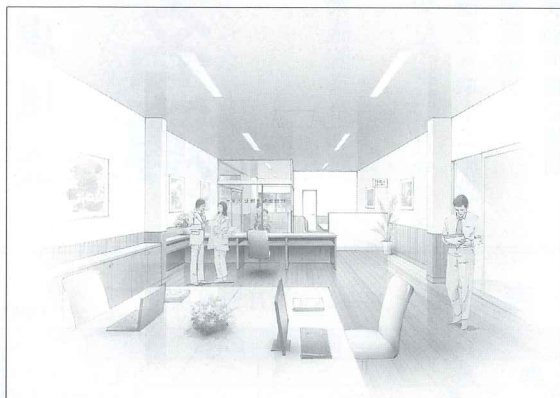
入職以来、三つのセクションを経験し、昨年十一月より居宅介護支援事業所・ホームヘルパーステーションの施設長に就任いたしました。ケアマネジャーとしての仕事も兼務しておりますが、持てる力を発揮出来るよう、一生懸命頑張ります。

ので、宜しく願いいたします。
私の担当する居宅支援部門では、四名（兼務も含む）のケアマネジャーが常駐。在宅で生活するお年寄りが、その有する能力・身の状況・環境等により、住み慣れた地域で出来るだけ自立した日常生活が送れる様、関係諸機関・主治医・サービス事業所との連携を図りながら、安心して生活していただけるよう支援しています。

また、ヘルパーステーションは、サービス提供責任者を含め十二名のスタッフが常駐。生活支援型・障害者福祉・介護保険サービス等本人のおかれている状況に応じて、自宅を訪問。掃除や洗濯・買い物等生活介護中心のサービスから、オムツ交換や入浴介助等、個々に応じたプランに従い、サービスの提供を行っております。スタッフ一同介護のプロとして各種研修会等に参加し自己研鑽し、

個々の利用者様が安心して望む生活が出来るよう支援してゆきたいと考えております。
前橋市の中心に位置し、高齢化率の高い地域にありますが、地域の皆様が恵風園に相談すれば、安心して生活できる。と相談していただける施設になれるよう頑張りたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

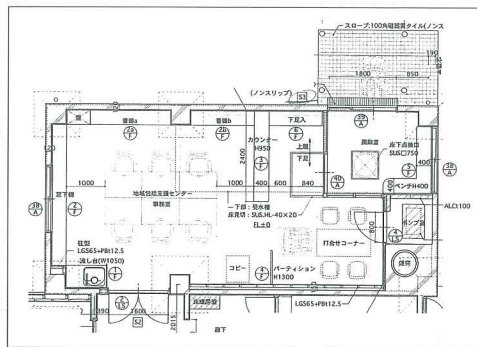
地域包括支援センター 事務室改修工事進む



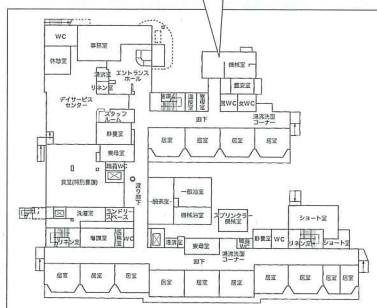
平成22年2月末完成予定

平成二十二年四月より受託予定の地域包括支援センター事務所を新たに設けるため、現在改修工事を急ピッチで進めています。
福島設計事務所に設計をお願いし、指名競争入札の結果、佐田建設株式会社が落札し平成二十一年十二月下旬より着工いたしました。平成二十二年二月末の完成を予定しています。
工事概要は、ボイラ室を改修し事務所に致します。また、消防用のポンプも同時に移設になります。安全

第一で工事が無事完了するよう、関係機関との連絡を密に滞りなく進めて参ります。



尚、工事中騒音等で、ご利用者の方々に迷惑をおかけしてしまうことがあるかと思ひますが、何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。



社会福祉法人 恵風会

役員名簿

理事長

田辺 誠 元衆議院議員

理事・評議員

大磯 誠 旅がらす本舗清月堂会長

大島 敬三 前橋老人ホーム施設長

桑原 功 衆議院議員

鈴木 康之 元前橋市議会議員

田畑 一夫 日吉町二丁目自治会長

土屋 純 医師・群馬大学名誉教授

角田 義一 弁護士・元参議院議員

評議員

天野 洋一 群馬日産社長

北川 英雄 元日吉町二丁目自治会長

小西 敬次郎 元上毛新聞社専務編集局長

坂本 喜市郎 民生児童委員(城東地区会長)

鈴木 ひろ子 元クスのマルエ相談役顧問

田辺 潔 田辺歯科医院長

永井 良一 元赤城村長

山田 浩史 清里荘施設長

横地 圭一 横地眼科医院長

監事

福島 庄司 元未来学園学校長

狩野 善幸 狩野経理事務所長

平成20年度決算報告

貸借対照表

平成21年3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	248,577,412	流 動 負 債	34,705,906
現 金 預 金	173,174,661	未 払 金	32,566,588
未 収 金	75,075,936	預 り 金	2,139,318
前 払 金	326,815		
固 定 資 産	821,066,501	固 定 負 債	132,994,289
基 本 財 産	788,408,781	設備資金借入金	127,060,000
建 築 物	664,001,953	退職給与引当金	5,934,289
建 物 付 属 設 備	60,974,748	負 債 の 部 合 計	167,700,195
土 地	63,332,080	純 資 産 の 部	
基本財産特定預金	100,000	基 本 金	127,652,880
その他の固定資産	32,657,720	基 本 金	127,652,880
構 築 物	672,191	国庫補助金等特別積立金	276,667,582
車 両 運 搬 具	3,267,874	そ の 他 積 立 金	10,000,000
器 具 及 び 備 品	12,482,206	施設整備費等積立金	10,000,000
権 利	20,000	次期繰越活動収支差額	487,623,256
ソフトウェア	148,960	次期繰越活動収支差額	487,623,256
退職共済預け金	3,954,038	(うち当期活動収支差額)	24,815,018
退職共済預け金(措置)	1,980,251		
施設整備等積立預金	10,000,000		
その他の固定資産	132,200	純 資 産 の 部 合 計	901,943,718
資 産 の 部 合 計	1,069,643,913	負債及び純資産の部合計	1,069,643,913

財 産 目 録

平成21年3月31日現在

(単位:円)

資 産		負 債	
内 容	金 額	内 容	金 額
流 動 資 産	248,577,412	流 動 負 債	34,705,906
現 金 預 金	173,174,661	未 払 金	32,566,588
未 収 金	75,075,936	預 り 金	2,139,318
前 払 金	326,815		
固 定 資 産	821,066,501	固 定 負 債	132,994,289
基 本 財 産	788,408,781	設備資金借入金	127,060,000
建 築 物	664,001,953	退職給与引当金	5,934,289
建 物 付 属 設 備	60,974,748		
土 地	63,332,080		
基本財産特定預金	100,000		
その他の固定資産	32,657,720		
構 築 物	672,191		
車 両 運 搬 具	3,267,874		
器 具 及 び 備 品	12,482,206		
ソフトウェア	148,960		
退職共済預け金	5,934,289		
※施設整備等積立金	10,000,000		
その他の固定資産	132,200		
権 利	20,000		
資 産 合 計 (A)	1,069,643,913	負 債 合 計 (B)	167,700,195
		差 引 純 資 産 (A-B)	901,943,718

平成20年度決算報告

資金収支計算書

自 平成20年4月1日～至 平成21年3月31日 (単位：円)

勘 定 科 目		決 算
経常活動による収支	収入	
	介護保険収入	357,722,558
	利用料収入	358,475
	措置費収入	142,422,940
	事業収入	10,504,810
	寄付金収入	1,158,474
	雑収入	1,695,756
	借入金利息補助金収入	1,750,000
	受取利息配当金収入	281
	経理区分間繰入金収入	19,796,697
	経常収入計(1)	535,409,991
支出	人件費支出	338,615,686
	事務費支出	36,643,255
	事業費支出	88,874,700
	借入金利息支出	2,647,200
	経理区分間繰入金支出	19,796,697
	経常支出計(2)	486,577,538
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		48,832,453
施設整備等による収支	収入	
	施設整備等補助金収入	3,847,000
	施設整備等寄付金収入	148,000
	施設整備等収入計(4)	3,995,000
支出	固定資産取得支出	10,033,010
	施設整備等支出計(5)	10,033,010
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-6,038,010
財務活動による収支	収入	
	その他の収入	361,598
	財務収入計(7)	361,598
	支出	
	借入金元金償還金支出	8,480,000
	積立預金積立支出	10,000,000
	その他の支出	523,096
	流動資産評価減等による資金減少額	200,744
	財務支出計(8)	19,203,840
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-18,842,242
予備費(10)		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		23,952,201
前期末支払資金残高(12)		189,919,305
当期末支払資金残高(11)+(12)		213,871,506

事業活動収支計算書

自 平成20年4月1日～至 平成21年3月31日 (単位：円)

勘 定 科 目		決 算
事業活動収入	収入	
	介護保険収入	357,722,558
	利用料収入	358,475
	措置費収入	142,422,940
	事業収入	10,504,810
	寄付金収入	1,158,474
	雑収入	1,693,976
	引当金戻入	571,580
	国庫補助金等特別積立金取崩額	16,692,162
	事業活動収入計(1)	531,124,975
事業活動支出	人件費支出	338,615,686
	事務費支出	36,517,465
	事業費支出	88,874,700
	減価償却費	40,493,598
	徴収不能額	200,744
	引当金繰入	735,384
	事業活動支出計(2)	505,437,577
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)		25,687,398
事業活動外収入	借入金利息補助金収入	1,750,000
	受取利息配当金収入	281
	経理区分間繰入金収入	19,796,697
	事業活動外収入計(4)	21,546,978
事業活動外支出	借入金利息支出	2,647,200
	経理区分間繰入金支出	19,796,697
	事業活動外支出計(5)	22,443,897
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)		-896,919
経常支出差額(7)=(3)+(6)		24,790,479
特別収入	設備整備等補助金収入	3,847,000
	設備整備等寄付金収入	148,000
	その他の特別収入	0
	特別収入計(8)	3,995,000
特別支出	固定資産売却損・処分損	1,757
	国庫補助金等特別積立金積立額	3,847,000
	その他の特別損失	121,704
	特別支出計(9)	3,970,461
	特別収支差額(10)=(8)-(9)	24,539
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)		24,815,018
繰越活動収支差額の部	前期繰越活動収支差額(12)	472,808,238
	当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	497,623,256
	基本金取崩額(14)	0
	基本金組入額(15)	0
	その他の積立金取崩額(16)	0
	その他の積立金積立額(17)	10,000,000
	次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	487,623,256

平成20年度

社会福祉法人 恵風会 苦情報告

1 苦情の数及び内容

(単位：件)

	苦 情 内 容	利用者本人	家 族	そ の 他	小 計
前 老	1) 職 員 の 接 遇	0	0	0	0
	2) サ ー ビ ス の 質 や 量	0	0	0	0
	3) 利 用 料	0	0	0	0
	4) 説 明 ・ 情 報 提 供	0	2	0	2
	5) 被 害 ・ 損 害	0	0	0	0
	6) 権 利 侵 害	0	0	0	0
	7) そ の 他	0	0	0	0
	計	0	2	0	2
恵 風 園	1) 職 員 の 接 遇	0	0	1	1
	2) サ ー ビ ス の 質 や 量	0	0	0	0
	3) 利 用 料	0	0	0	0
	4) 説 明 ・ 情 報 提 供	0	0	0	0
	5) 被 害 ・ 損 害	0	0	0	0
	6) 権 利 侵 害	0	0	0	0
	7) そ の 他	0	0	0	0
	計	0	0	1	1
デ イ	1) 職 員 の 接 遇	0	0	0	0
	2) サ ー ビ ス の 質 や 量	0	0	0	0
	3) 利 用 料	0	0	0	0
	4) 説 明 ・ 情 報 提 供	0	0	0	0
	5) 被 害 ・ 損 害	0	0	0	0
	6) 権 利 侵 害	0	0	0	0
	7) そ の 他	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
支 援	1) 職 員 の 接 遇	0	0	0	0
	2) サ ー ビ ス の 質 や 量	0	0	0	0
	3) 利 用 料	0	0	0	0
	4) 説 明 ・ 情 報 提 供	0	0	0	0
	5) 被 害 ・ 損 害	0	0	0	0
	6) 権 利 侵 害	0	0	0	0
	7) そ の 他	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
ヘル プ	1) 職 員 の 接 遇	0	0	0	0
	2) サ ー ビ ス の 質 や 量	0	0	0	0
	3) 利 用 料	0	0	0	0
	4) 説 明 ・ 情 報 提 供	0	0	0	0
	5) 被 害 ・ 損 害	0	0	0	0
	6) 権 利 侵 害	0	0	0	0
	7) そ の 他	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
	合 計	0	2	1	3

2 顛 末

法人全体 (単位：件)

1) 円満に解決 (説明・協議により申立者が納得、現状は変わらず)	1
2) 円満に解決 (施設側が何らの改善をして、申立者が納得)	2
3) 県社協 (運営適正化委員会) の斡旋により和解	0
4) 訴訟に発展	0
5) 未解決につき調整中	0
6) その他	0
合 計	3

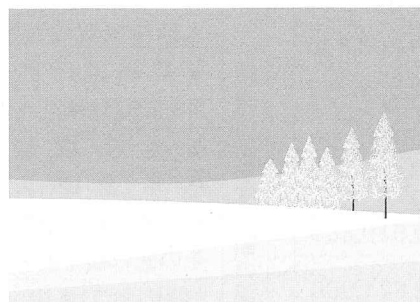
恵風会苦情解決第三者委員会

日 時…平成二十一年七月
二十九日(水) 午前四時～
五時

場 所…恵風会会議室

出席者…

第三者委員 山田浩史委
員、荻野恒男委員
恵風会 田辺理事長、千
吉良施設長、大島施設長、
田辺総務課長



恵風会だより 第7号

発行日 平成22年1月1日
社会福祉法人 恵風会
発行人 田 辺 誠
〒371-0017
前橋市日吉町2丁目20番地14
電話 027(231)3430